

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2013 年度 12 月定例研究会プログラム

日時： 2013 年 12 月 21 日（土曜日） 14 時 30 分～17 時 40 分

会場： 中京大学名古屋キャンパス 5 号館 2 階 523 教室
（地下鉄鶴舞線八事駅下車 5 番出口徒歩 0 分）

開会挨拶 14 時 30 分～14 時 40 分 大森 裕實（愛知県立大学）

研究発表 14 時 40 分～15 時 40 分 司会 吉川 寛（中京大学）

「国際英語と異文化理解」研究会

研究発表 1

国際英語論の考え方を反映した英語教育とは—情意レベルを刺激する肯定的体験学習のすすめ—
塩澤 正（中部大学）

研究発表 2

日本人が英語を話す時の心理的障害

倉橋 洋子（東海学園大学）

休憩 15 時 40 分～16 時 00 分

講演会 16 時 00 分～17 時 30 分

司会 小宮 富子（岡崎女子大学）

現代英語における「SV0±1」の構文の体系について

宗宮 喜代子（岐阜聖徳学園大学）

閉会挨拶 17 時 30 分～17 時 40 分

大石 晴美（岐阜聖徳学園大学）

懇親会 17 時 45 分 ～ 19 時 00 分 （会場 「ボヌール」 センタービル 2 階）

司会 リア・ギルナー（文教大学）

研究発表要旨

「国際英語と異文化理解」研究会

国際英語論の考え方を反映した英語教育とは —情意レベルを刺激する肯定的体験学習のすすめ—

塩澤 正（中部大学）

英語を習得する上で「緊張民族日本人」が抱える大きな心的障壁の一つが、「言語不安」や「情意フィルター」の働きである。日本人英語学習者の WTC（コミュニケーションを取ろうとする意志）が極端に低い背景には「言語自我」を守ろうとする心的防衛反応の根深さが存在している。この心的障壁を飛躍的に低くする可能性があるのが「国際英語論」の考え方である。この考え方に共感を覚える英語教師は少なくない。だが、実際教える段階となると、国際英語論の立場にたった英語教育とはどのようなものを指して言うのか、どのような基準にもとづいて英語を教えればいいのか、また、普段の授業でどのように国際英語論の考え方を具現するかなどの疑問が湧いてくる。本発表では、今までの「国際理解と国際英語研究会」の研究成果をいくつか紹介しながら、国際英語論の立場から日本で英語を教える場合の基本的な考え方、態度、基準となるベンチマークなどを提案してみたい。

日本人が英語を話す時の心理的障害

倉橋 洋子（東海学園大学）

2011 年から文部科学省や日本経済団体連合会等は、これまで以上に「グローバル人材の育成」をめざし、提言を行ってきた。しかし、英語を話すことに関して言えば、自信をもって英語を話せる日本人は多いとは言えない。その理由の一つと考えられる、日本人が英語を話す時に抱く心理的障害の克服に取り組むことは、急務である。これに関連した学習者の「情意フィルター」についてのこれまでの研究には、日本人に関する第一言語、もしくは第二言語に関するものが多かった。そこで、日本人の英語を話す時の心理的障害の特徴をより明らかにするために、Kachru が提案した同心円モデルの Expanding Circle に属する英語使用者をインタビューした。対象者は、日本人、韓国人、中国人、ベトナム人、ミャンマー人等の大学生から社会人である。インタビューの主たるテーマは、同心円モデルのどのサークルの人々と話す時により緊張するか等である。本発表ではインタビュー結果を報告する。

講演要旨

現代英語における「SV0±1」の構文の体系について

宗宮 喜代子（岐阜聖徳学園大学）

この講演では、はじめに中英語の時代から現代までに起きた英語の言語内的な変化に言及して、特に屈折語尾の単純化とSV0の語順の固定化によって、その分だけ英語が万人にとって学習しやすい言語になったことと、これが、英語が国際語と呼ばれるような世界の共通言語になった理由の一つであることを論じます。

次に、歴史的な変化の結果としての現代英語の顕著な特徴から、英語という言語のどのような性格が見えてくるか、日本語と対照しながら考えます。ここでは、言語の性格は言語集団の性格に通じ、言語と文化は相関するという立場で話します。ここまでは導入部ですが、はじめから本題のSV0構文に焦点を当てています。

これ以降では英語の基本的なくつかの構文を取り上げて、それらがSV0を中心に体系をなしていることを論じます。この体系は英語話者たちが世界を見る時のテンプレートであり、彼らがどのような世界観を持っているのか、英語が何を表わしたい言語であるのかを示唆しています。

結論を先取りすれば、英語は世界の森羅万象の中で、客観的で物理的な因果関係を呈する出来事に注目する言語であると言えます。その出来事を原因から結果まで見据えた形で簡潔に表わすのがSV0構文です。SV0で表わしきれない事態や、あるいは因果関係の連鎖の一部分に相当する事態は「SV0±1」の構文で表します。

これらの構文の文法的ふるまいを観察すると、SV0が構文の理想形であることが浮き彫りになってきます。また、各々の構文には意味があることも見えてきます。英語教育においては、英語の5文型あるいは7文型を個別にリストアップして教えるのではなく、これらの構文が体系を成していること、各々の構文に意味があることを教えるべきであると考えます。特に「第1文型」と呼ばれるSV構文には、SV0の前半と後半に相当する内容を表す「する」型SVと「なる」型SVがあり、この点を理解することが英語を深く理解するきっかけになると思います。

講師略歴

宗宮 喜代子（そうみや きよこ）氏

1948年（昭和23年）岐阜市生まれ。岐阜高校卒業、東京外国語大学英米語学科卒業。

1974年にオハイオ州立大学大学院言語学科修了（Master of Arts）、1976年に東京外国語大学大学院ゲルマン系言語専攻科修了（文学修士）。

オハイオ州立大学客員研究員、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、東京経済大学助教授、東京外国語大学教授を経て、現在、岐阜聖徳学園大学外国語学部教授、東京外国語大学名誉教授。

おもな著作に、『アリスの論理—不思議の国の英語を読む—』NHK出版、『道を歩けば前置詞がわかる』（共著）くろしお出版、『文化の観点から見た文法の日英対照』ひつじ書房、他多数。2013年10月から「英語、大好き！—言語をめぐる冒険—」岐阜新聞日曜版も連載中。

定例研究会懇親会のご案内

当日、「ボヌール」にて、2013年の忘年会も兼ねて、定例研究会懇親会を行います。会費は4,000円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は12月18日（水曜日）までに、事務局まで電子メールにてお申し込みください。

今年最後の情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 中京大学は、喫煙場所を除き、キャンパス内は禁煙となっております。
- ☆ 当日、第8回中部支部役員会（12：30～13：50）を行います。役員は同会場5号館5階521にご参集下さい。
- ☆ 次回の定例研究会は、2月22日に中京大学で開催します。研究発表申し込みの締め切りは1月8日です。発表希望者は、氏名・所属・タイトル・概要（日本語300字または英語200語程度）を記載の上、メールで下記事務局までお送りください。件名は「JACET 定例研究会発表申し込み」としてください。

定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 石川有香研究室内

ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

